

* 男の年末正月を秀彦日記から紹介します。

大正四年（秀彦 二十歳）

十二月廿八日 曇小雨

愈々今日年賀ヲ書キ終ル貢物モ大分来夕

午后赤岡へ行キ郵便局ニテ年賀端書ヲ出ス。小川呉服屋へ送金ス

今日八餅揚キ行フ七五三又ベナリ

十二月廿九日 曇后雪

朝九時頃カラ章及お上乃子供等共ニ雉打ニ生捕ニ先日雌雉をとれた処ニ今日又雄ガニ羽居つたけれどとれなかつた。犬が大分精だしてやり出した

十二月卅日

今日八朝カラ貢物ヲ取り入れや何ヤデー日一寸慌しかつた

十二月卅一日 晴

本年モ今日を以て終るなり本年も大した活動もなさし而終りたり

朝の内を賣物をみたり午后一寸鳥打ニ行く打ちをさめなり何れ来ル年ニモ大ニ努めて見ん

大正五年

一月一日 土曜日 天氣 雨 寒暖 暖

愈々本年モ本日カラ始マルナリ天氣ナレカント願フタニ如何ナル訳力朝カラ小雨降り出シタリ丁度
春雨の一様ニ暖カシ

朝元日之祝ヲ一同デ済マス本年ヨリ八大ニ工暮事悪シキ八なク善ニ着ク様ニセ子ハナラヌ
年賀状沢山附イタ 装弾ヲスル

夕方ヨリ藤之進、お雪、梶蔵、お上ニ同等ヲ招キ年始ノ祝ニ兼子佐喜子端午ノ祝ヲナス

一月二日 日曜日 天氣 雨 寒暖 暖

今日八鳥撃二行からと考へで居つたが天氣が確かをせんので中止をした・・・以下略・・・

一月三日 月曜日 天氣 はれ 寒暖

今日八朝から撃初めて出掛る一日働(*動)いて四羽乃雉二出会ふ 其れを九度モ追ひ出したが一羽もとれじどーも走が悪かつた 母出高

一月四日 火曜日 天氣 晴 寒暖 暖

今日も朝から章と共に二雉撃二出掛ケタリ一日働いて今日も無昨日乃四羽ガ晝ヲ出たがとれたは僅か一羽なり母高知より歸へらる・・・以下略・・・

一月五日 水曜日 天氣 はれ 寒暖 寒

今日モ朝から午后三時頃□迄雉狩で暮す一羽も出会はず歸つてぐすぐすし而居・・・以下略・・・

一月六日 木曜日 天氣 はれ 寒暖 さむ・・・以下略・・・

一月七日 金曜日 天氣 寒暖 さむ

・・略・・残ノ客ナリ食後出掛ケ御馳走ニナリ帰ツタラ母インフル風ニテ床ニアリ

大正八年

一月一日 水曜日 天氣 雨 寒暖

朝我家ニテ家内一同打チ揃ヒ年頭ノ儀式ヲセリ直チニ又浅上王子宮ニ於テ四方拜ヲ執行其レカラ小學校ノ拜賀式ニ列シ生徒ニ羊ノ話ヲシテ祝辞ニ代ヘ續イテ新年祝賀会ヲ學校ニ於テ開催大戦后ノ新年ヲ迎フニ当リ即チ此ノ平和ノ第一年ニ於テ来ルヘキ經濟戰及思潮ノ變遷ニ對シ國民ノ覺悟ト昇張セル精神ヲ必要トスト云フ意味ノ演說ヲセリ・・以下略・・

大正九年

一月一日 木曜日 天氣 晴 寒暖

朝家内一統揃ツテ新年ノ式ヲセリ自分八次テ浅上王子宮小學校ニ於ケル新年式ニ列ス學校ニ於テ新年祝賀宴ヲ催ス・・以下略・・

*祖父秀彦・いつからか分かりませんが、仕事は正月からと言って、元旦から仕事(産業組合)に出掛けてました。

* 少し昔に戻って又彦日記から クセ字の読み間違い読み不可あり

明治三十年(又彦 三十二歳)

一月一日 金曜日 天気 寒暖

此ノ日xノ儀式ニアリ山北尋常小學校ニ至り新年拜賀式ヲ行フ畢テ茶菓の饗應アリタリ

.....

十二月二十八日 火曜日 天気 寒暖

本日有岡并二四坊山ノ先榮ニ参拜ス・以下略・

十二月二十九日 水曜日 天気 x 寒暖

当日午前□時頃ヨリ時々雨ありたり

本夜□□二於て發句連忘年會ヲ開ク題 イサマ、ホシキ、カ、カ

明治三十一年 * 戊戌(キジイツ)

一月一日 土曜日 天氣 雨 寒暖

本年□元□尚(*英照皇太后孝明天皇の女御にして明治天皇の嫡母(※実母ではない)。旧名、九条夙子(くじょうあきこ)。御大喪中にあらせらるること似つて・・・中略・・・

午前五時起床儀式をすませて後賀状を交人往家・・・以下略・・・

一月二日 日曜日 天氣 晴 寒暖

朝来曇天ニシテ頗ル暖氣ヲ感シタルモ正午頃ヨリ快晴ニ寒氣ニ催セリ

例年物通り鋤物ノ式を行ふ

土陽新聞福刷物付録富士八嶋物名版為シ・・・以下略・・・

十二月二十八日 火曜日 天氣 寒暖 * 記載無し

一月二日 月曜日 天氣 寒暖

本日格別ノ記事ナシ・・・以下略・・・

*** 更に戻って文助日記から**

文助日記には年末正月の行事に関する記載は見当たらず、年末ではないのですが次の餅搗の記載があるのみです。餅搗は一大行事だったのででしょうか。

安政二年四月

同廿九日本家餅ツキ

文助にとって正月最大の行事は記載内容からも馭初(のりぞめ)でしょう。

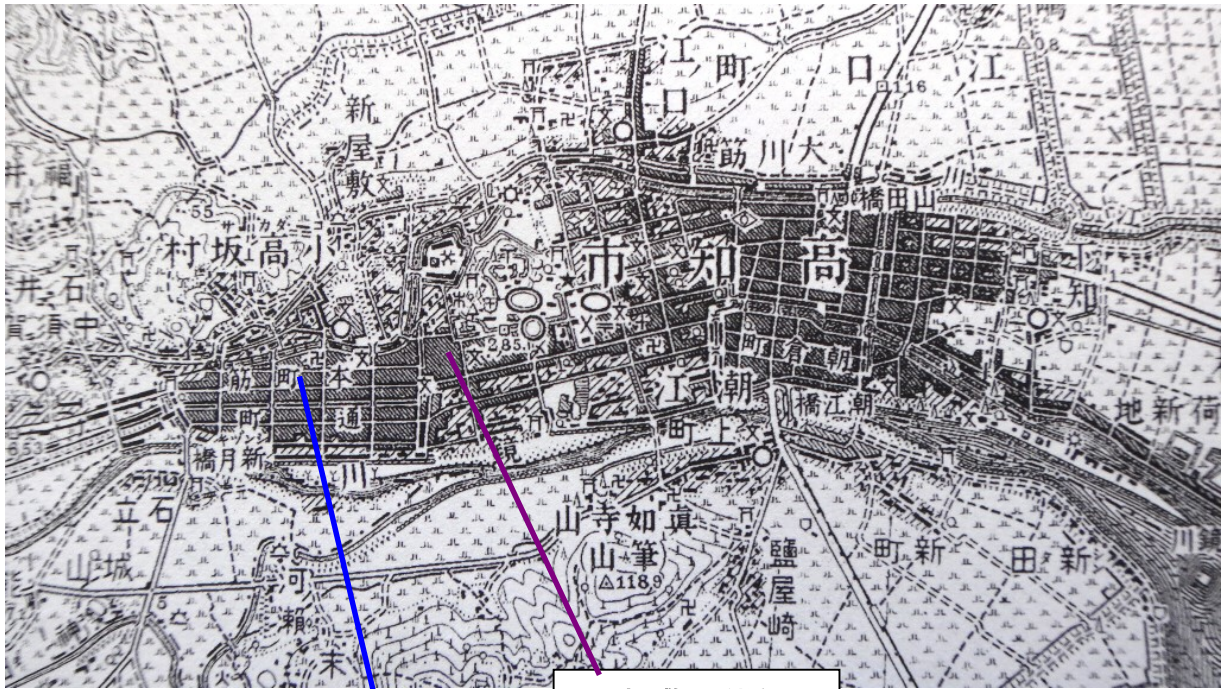
文助日記を見ると、落馬したとか、刀を落としたとか正月の記録に出てきます。出場する郷土は地域ごとの持ち廻りだったのでしょう。物部川は乗馬して渡ったのでしょうか。身内が無事完走したときの安堵の気持ちを読み取れる記載もあります。番屋の馬小屋は二頭の馬を飼い、いざの時に

出て行ったようです。いざと言っても、この正月の城下で行われた馭初(のりぞめ)これが主な馬と共に出掛ける行事なのでしょう。

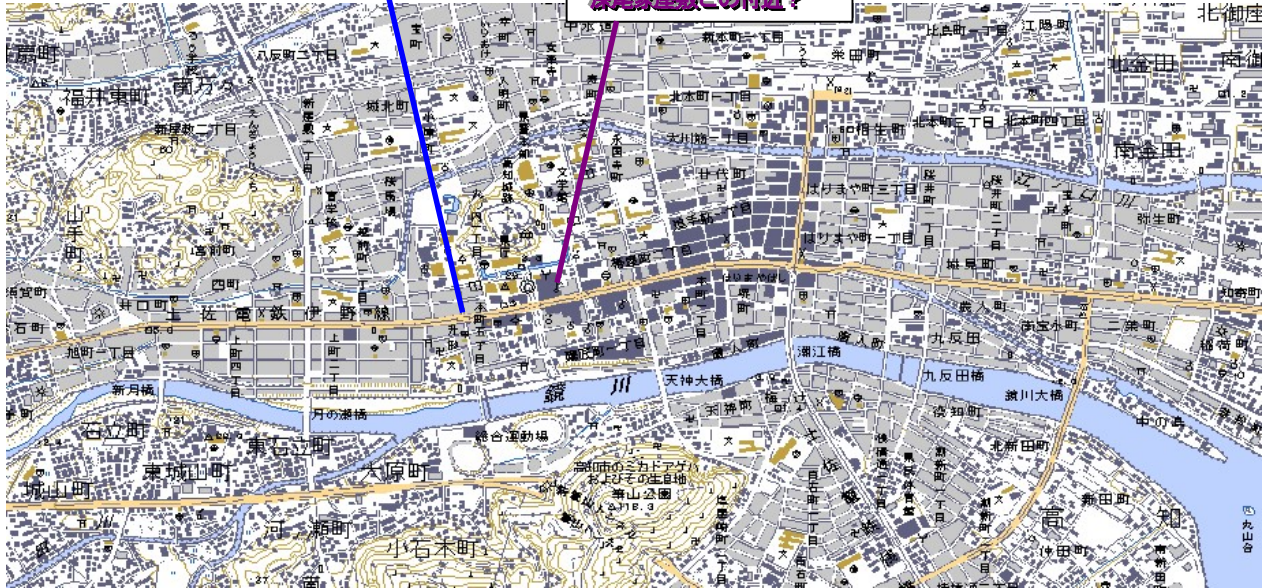
初駆は現在の高知市内の飲み屋葉牡丹付近にある看板に次の記載があります。

旧 本町 城下町がつくられたとき、最初にできた基本となる町筋であったことに由来する町名。東の堀詰から西の升形まで、郭中をつらぬく形でつくられた武士の屋敷街。長宗我部時代に、すでに原型があつたともいわれる。毎年正月十一日のお馭初(一騎駆)では、高知城の南門の筆頭家老深尾家屋敷内櫓から、藩主が騎走する武士を閲兵した。

地図は上が明治四十年測量地図、下が現在の地図です。両地図を青線で本町筋と本町本町五丁目を結んでいます。現在の建物が並んでおり、櫓の上からでも本町通りが見えたのでしょうか。道路の並びには大きな変化は無いですが、建物は大きく変化しています。



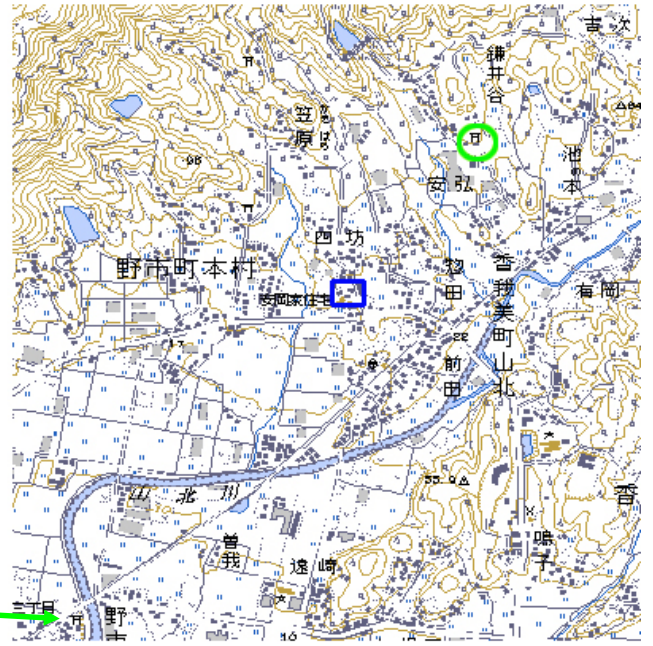
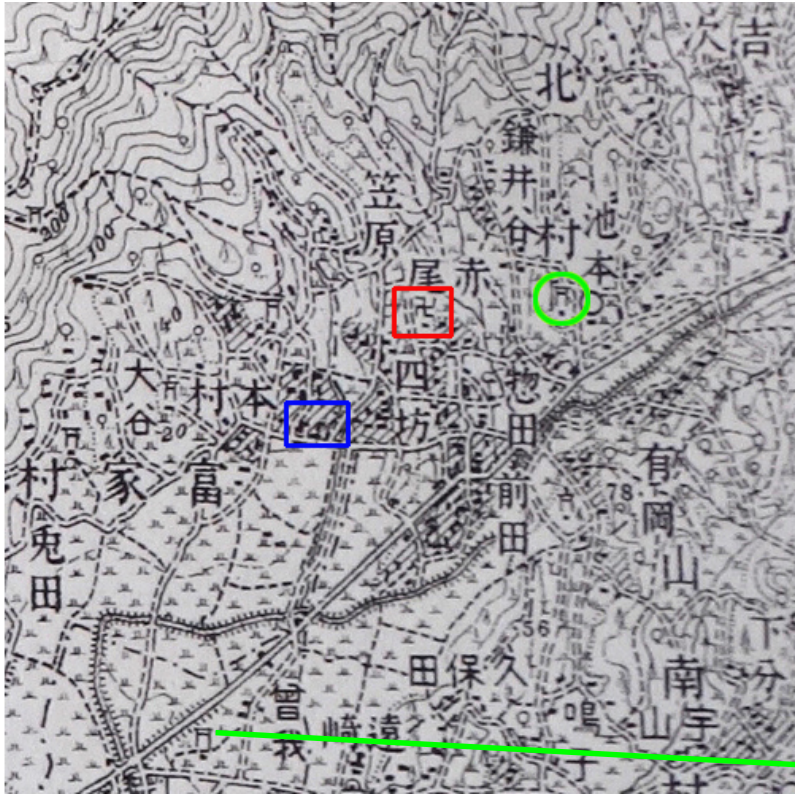
深尾家屋敷この付近？



高知市内の城の付近を見ると、道路に関して明治四十年と現在と大きな変化はありません。

山北付近どうなのかと思い同じように新旧を並べてみました。道路は古くからあるようです。山北川の位置も微妙に変わっています。

浅上王子宮を緑○で囲んでいます。旧の地図には金水寺を赤□で囲んでいます。何故か、新の地図には記載がありません。新の地図には安岡家住宅がマークされていますので、それを青□で囲んでいます。本村の神社は新旧で位置がvari新で増えているように見えます。地図を見ると神社マーク(鳥居マーク)が点在します。曾我付近の神社マークが新旧(緑↓)で異なっています。河川工事、道路工事で移転したのでしょうか。明治十二年の神社調査で山北村に二十社ありました。現在いくつかの神社が残っているの何故でしょうか。



城山	恵日寺	戎ノ丸	八王子	楠ノ一平	松ヶ畝	土居山	中ノ土居	明神	神母	惣方	鬼床	芝屋敷	野田	平等寺	前田	中内	若一丸	野口	鎌井谷	字
八幡宮	神明社	夷神社	海津見神社	星神社	野神社	劔神社	御室八幡宮	明神社	神母神社	八幡宮	海津見神社	日吉神社	八幡宮	日吉神社	聖神社	巖島神社	若一王子宮	全宮張所	浅上王子宮	神社名